酒々井町
郷土研究会々報
第85号
平成9年7月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

本佐倉城跡周辺の散策（二）

高橋　健一

1、宝珠院阿弥陀堂の地鎮

大師まわり佐倉組十善講内郷組の札所である宝珠院（大佐倉）大師堂の敷石には「地鎮、明和四丁亥十二月四日、壁宿土曜巳巳時、現住宥恩」と刻まれています。壁宿・土曜・巳巳とは次のような意味です。

暦注では二十八宿のうち北方玄武七宿の一つ壁宿にあたる日は、造作・婚礼・衣類裁断に大吉とされていました。また土公神が支配する春夏秋冬の四回ある土曜の期間中は、造作・竈などの修造・柱立・礎置・井戸掘り・壁塗りなど一切の土を動かすことができない凶日とされていましたので、それぞれの期間中に土を動かしても祟りがないとする日をおいていました。間日といいます。そこには文殊菩薩のはからいにより土公一族のすべてが清涼山に集められるので祟りがないという理由づけがなされていました。冬の土曜期間中の間日は寅・卯・巳の三日間でした。

さらに巳と亥の日は重日（ちう日）といって、この日に行ったことは重なって生じるため吉事には良く、凶事には悪いとされていました。また結婚は大吉、普請や造作は吉とされた節切りによる母倉日（ぼそうび）では十月節・十一月節・十二月節（立冬の日から立春まで）の場合には巳と午の日（撰日法によっては申と酉の日）がその日にあたりました。

そこで宝暦五年（一七五五）以来の「宝暦甲戌元暦」を使用していた明和四年（一七六七）に、宝珠院の住僧宥恩は、壁宿にして土曜期間中の間日であり、さらに重日、母倉日にあたる十二月四日（己巳の日）を地鎮によい日とみて阿弥陀堂の再建に着手したのでした。

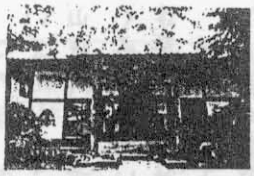
阿弥陀堂の再建願書が佐倉藩に提出されたのは宝暦十三年七月のことで、明和四年二月十日には成就届が提出されています。

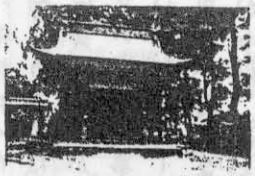
2、宝珠院の大師堂

弘法大師を本尊とする宝珠院大師堂は、もとは表門を入って左手（西側）にありました。天保五年（一八三四）には弘法大師千年忌の供養塔が大師堂に隣接して造立されました。

大師堂は承応三年（一六五四）に佐倉十万石の領主堀田正信の家臣植松雪斎（吉寿）によって建立されましたが、享保九年（一七二四）に焼失してしまいました。そのの、天明四年（一七八四）に再建されましたが、これも明治十三年（一八八〇）十月三日の大風雨により壊れたため本尊弘法大師は阿弥陀堂に移されました。そして、大正元年（一九一二）に、それまで阿弥陀堂があった現在地に新築されました。

本尊弘法大師像の由来は、平安時代の大同三年（八〇八）に弘法大師が印西平賀村花島山（現・印旛村平賀）に曼陀羅院（大日本寺）を建立した時、自らが三尺あまりの坐像を彫って同寺に安置、しかし戦国期の享禄年中（一五二八～一五三二）に同寺が零落退転したため、宝珠院の門葉であった山田村（現・印旛村山田）不動院の鏡心大師がこれを宝珠院に移したものと伝えられます。またこの弘法大師像は印旛沼の氾濫により花島山から当地に漂着したとも伝承されています。


宝珠院本堂


大師堂

第85号（No2）　酒々井町郷土研究会々報　平成9年7月1日（火）

山菜を食べる会に参加して

寺嶋ゆり子

親しい友人達に誘われて、郷土研究会のメンバーに入れていただいて二年目…。山菜を食べる会には二度目の参加となります。ふだんはほとんど幽霊会員ですが、「一〇〇を食べる会」という時だけはお手伝いの名目で参加させていただいています。

今回は、私用で前半のお手伝いもせず、公民館に着いた時にはすでに談笑の輪の中で食事が始まっていました。

すみれの一輪差しで演出されたテーブルに着くと、カラフルな三色御飯と盛り沢山のお惣菜が目に飛び込んできました。山菜と言いますと、わらびやぜんまい等を連想しがちですが、今回は、たらの芽・うど・はす・ゆきのしたの天ぷら、たけのこ・ふきの煮ものなど季節感あふれる食材で、まさに「春を食する」、といった趣でした。意外だったのが、ゆきのしたの天ぷらで、何とも乙な味わいである事をこの年になって初めて知りました。また、ふきの葉の煮ものは、ほろ苦さと削り節のうまみが程良くブレンドされて、とてもおいしく珍味でした。

このような会に参加していつも思うのは、運営、企画を担当していらっしゃる役員さんの御苦労です。材料を揃え、下ごしらえをし、調理をしてと……。百人近くの食事をたいした過不足もなく作るのは大変なことだと、役員さんの知恵と努力に敬服せざるを得ません。同じ主婦でも、皆さん主婦のプロだと言えるでしょう。私のように家族の健康維持のため必要最低限度仕方なく……と言うのとは違って　ともあれ、多少なりとも人生の経験の多い方々と接していますと、お料理だけではなく、いろんな意味で自己の未熟さを再発見させられ、教えられることの多いひとときでした。これからも役員さんのお世話になりながらこのような会に参加できることを楽しみにしております。

日帰り見学会「茨城・雨引観音方面」に参加して

松田清子

朝曇りの六時三十分に、中央公民館を全員揃って出発しました。道中の新緑の山々、沿道の色とりどりの草花や、家々の花木を眺めながら、まず最初に訪れた月山寺は天台宗の寺で、附属の美術館には仏像、仏画、古文書などの寺宝と、榎戸庄衛画伯の作品が展示されておりました。

次に訪れたのは雨引観音です。この寺は真言宗（坂東第二十四番寺）の寺で、まず最初に出会ったのが桜の老木で、年輪の大きさにこころ打たれ、我を忘れて思わず木肌に手をふれました。そこから少し足を進めると今度は椎の老木、幹の大きさに目を見はりました。境内の中に入ると、有名な仁王門・多宝塔がそびえ立ち、寺の壮厳さを示しておりました。ご本尊は延命観世音（前立観世音と共に県指定文化財）ですが秘仏のため拝観出来なかったことが残念でした。薬医門は少し離れた参道に時代を思わせる風格をただよわせておりました。

雨引観音を後に次は、茨城県内随一の規模を誇る花の公園「フラワーパーク」に到着し、昼食のあと各々に散策。園内には世界のバラやぼたん等ちょうど花ざかりで目を楽しませてくれ、大温室の中では熱帯花木が植えられていました。花の買物でひとときを過しパークをあとにしました。

この後、大室八幡神社へ向かいました。この神社の本殿は桃山時代の地方的建築の特色がよく表われているとの事、見事な建築美を見せていただきました。

最後に石下豊田城へ行きました。城の展望台からは、美しく広大な田園風景を眺めることが出来、ここに城が存在する意図がわかるような気がしました。城の中は郷土史資料等を展示した歴史資料館になっておりました。

豊田城を後に帰路につき定刻に全員無事帰ってきました。見学会の終日を、古い時代の良き寺宝や建築物にふれる事ができ、心の糧にする事が出来ました。

ありがとうございました。

郷土研日　4月～6月末

月日	内容	参加者数
4/4	名勝探訪・青山霊園方面下見	7名
4/8	名勝探訪・青山霊園方面 実施	34
4/18	野草の会・山菜を食べる会	81
4/21	〃　・野草観察の会（酒々井方面）	36
5/10	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」㉙	23
5/13	日帰り見学会・茨城・雨引観音方面	43
5/18	町内史跡めぐり　本佐倉城跡・将門方面	71
5/19	研修部会（7名）5/20 ミステリーコース下見（4名）	11
5/28	部長会（午前中）11名　編集委員会 5名	16
6/3	運営委員会（第三期事業計画）	22
6/4	名勝探訪・ミステリーコース	54
6/7	史談会休講　近郊寺社見学に変更	16
6/28	会報発送 23名（4/12-6/24 会報校正 10名）	33
	延参加者数	447

町内史跡巡りに参加して

上野哲

昨夜来の雨も上がり鶯の声が聞こえ初夏を思わせるような爽やかな一日、酒々井町内・大佐倉周辺の約一〇キロを歩き、中世の時代にタイムスリップしたような史跡巡りでした。

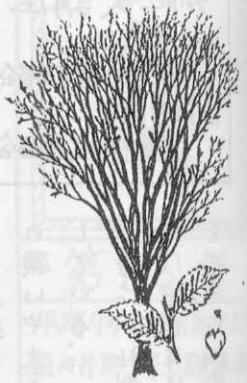
千葉県で城跡として最初に国指定史跡に指定されることになった本佐倉城跡は、十五世紀中頃、千葉氏第十九代輔胤が築城し、十六世紀末までの約一五〇年間千葉氏の居城として栄えました。豊臣秀吉の小田原城攻めで北条氏に味方した千葉氏は滅亡しその後、徳川家康の家臣が入城しましたがほどなく廃城となり現在に至ったそうです。

奥の山、城山で城郭の説明があり、城郭跡には多くの陶磁器が埋没しており発掘調査が待たれるとのこと。これを機に早期に当時の建物が再現されればと思いました。また酒々井小学校から荒上地区までの本佐倉城の城下の壮大さに驚かされ、当時の城下町の賑やかさが想像できるようです。

木内講師の説明は時代の流れや、東国武士の朝廷に対する考えがよくわかり、楽しい一日でした。

ケヤキへの想い

亀井香久乃



北海道を除く全国各地に生えているケヤキ〔にれ科〕、については周知の限りである。古代から斉槻と呼ばれ、神宿る木として各戸の屋敷廻りに必ず植えてあった。

此の町も歩けば其処ここに、二、三百年は経ってであろう大木が其の家の守護と歴史を秘めて立ちつくす姿には、畏敬の念を抱かせる。漢字では欅と書くが、これは、大地に根を張り、天に向かい両手を高く突き上げている姿に似ている樹形から付けられた字である。

春の芽出しは陽光に映えて美しい。夏は大ぶりの葉が茂り、木陰は直射日光を防いでくれる。秋の落葉は堆肥を作り、また真冬の寒空に、身動ぎもせず立つ裸木には、他に多くの樹木にはない魅力がある。

『ケヤキの薪を三年焚けば盲目となる』

との謂れがある程、昔から大切にされてきた木である。

桜のじゅうたん
青山霊園方面探訪記

寺本恵美

今年は例年になく桜の花の咲くのが早く、満開期が過ぎてしまっている上に、前日生憎な大雨だったのでちょっぴり心配でした。霊園に着いてみるとやっぱり昨日の大雨は桜の花をたたき地面はピンクの花びらのじゅうたんを敷きつめたよう!!。踏みしめながら残念な思いが広がります。所々では会社の人達の花見席の陣取りがあり、すでに楽しそうに宴会の始まっているグループもいて羨ましく思いました。明治・大正・昭和の偉人のお墓にお参りして、根津美術館へ向かいましたが途中、霊園の方を振り返えると、桜が「今もいい時よ」と言っているようでした。

根津美術館では特別展があり、外国の仏像等が展示してありましたが、はじめに見た弥勒像のふくよかさに自分の中のイメージとの違いにがっかりしました。日光東照宮の襖絵などは何か心に残るものがありなごみます。庭園も広々として、創立者が茶の湯に造詣深いようで茶室が幾つかあり、散策道には所々石仏や道しるべが置かれ茶人の寂を求めた庭に堪能しました。充ちたりた心で美術館をあとにし家路に着きましたが、春爛漫楽しい一日でした。

会計報告

山菜を食べる会（4/18）

収入		支出	
会費	40,600.-	野菜・肉類	34,970
残高整理	17,178.-	主食・デザート	17,523
雑収入	5,000.-	調味・雑費	3,639
	62,858.-		55,632

残金7226円 翌3月へ

日帰り 関宿方面（3/26）

収入		支出	
会費	46人×3,500＝161,500	八雲観光バス代	123,600
		昼食代外	54,970
		返金分	12,900
			193,470

残金30円 翌上期へ

日帰り 茨城・雨引観音方面（5/13）

収入		支出	
会費	6,000×45＝270,000	八雲観光バス代	238,825
		コピー代その他	19,090
			268,515

残金1,485円 翌上期へ

第85号（No.4）　酒々井町郷土研究会々報　平成9年7月1日（火）

郷土研行事案内

平成9年7月～9月

	7月	8月	9月
史談会	5日（土）午後1時30分 中央公民館会議室 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」㉑ 講師　高橋健一先生	休講	6日（土）午後1時30分 中央公民館会議室 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」㉒ 講師　高橋健一先生
名勝探訪	9月19日（金）雨天代替 9月26日（金）　集合場所　京成酒々井駅　8：10集合 世田谷方面　コース　京成酒々井駅 → 日暮里 → 渋谷 → 東急世田谷線 松陰神社前 → 松陰神社 → 豪徳寺 → 世田谷八幡宮 → 万葉の小径 → 東急世田谷 → 渋谷 → 京成酒々井駅 費用は各自負担 《都合により一部行程の変更もあります》		
郷土史講座 後援 酒々井町教育委員会 後援申請中 酒々井町文化協会	8月10日（日）　午後1時30分開演　会場　中央公民館講堂 演題「利根川べりの女人信仰」（入場無料） 講師　郷土史研究家（印西市史編さん委員会会長） 榎本正三先生 皆さまお誘い合わせて多数ご聴講下さいますようお待ちしております。		

榎本正三先生のプロフィール

大正三年、東京都調布市生れ。千葉県師範学校専攻科卒。印西市在住。教育家、郷土史研究家、趣味の園芸家等多彩な顔を持つ。

酒々井中学校長（昭和四十一年～五十年）として敏腕を奮い、後に印西町中央公民館長、印西町史編さん委員、同編集委員を歴任、現在印西市文化財審議会委員長、市史編さん委員会会長を務める。

先生は民俗学についての造詣が深い。利根川べりの北総は庶民信仰の盛んな地域であるところから、信仰集団である「講」に焦点をあてその遺産である石造物を通して庶民の願いや生きざまを追究している。

特に、杜寺の境内や路傍に佇む月待塔や子安塔を丹念に調査し、女性の生き方に深く迫ったいわゆる「金石文による女人信仰」の研究は学術的にも高い評価を受けている。

先生の研究には、深さと広がりがあり、女人信仰を例にとっても、絵馬・棟札・針供養・流水灌頂（ながしかんじょう）・お百度参り・丑の刻参りと視点の発展的展開がある。

〈主要論文〉

「庚申信仰と北総の百庚申」

「金石文が語る女人信仰（にょにん）」

「流れ灌頂（かんじょう）と女人成仏」

「印西町の奥州路」

ほか多数。

〈著書〉

「航跡」（自叙伝）

春先、榎本郎は、見事なサツキの花に埋まる。

（文責　金杉　妹）

名勝探訪

世田谷方面　9/19（金）（雨天代替 9/26（金））

残暑厳しい一日、幕末の志士を偲びながら世田谷を散策しましょう。長州藩士・吉田松陰をまつる松陰神社で松陰や志士達のお墓にお参りした後、桜田門外の変で散った井伊直弼などのお墓がある豪徳寺に立ち寄り、源義家が創建したといわれる世田谷八幡宮で柏手をうち、万葉歌人のゆかりの植物が植えられている曲りくねった小径を説明板をみながらのんびりと歩いてきましょう。

あとがき

ペルーの人質事件も解決し、忘れられない事件ながら少しずつ記憶が薄れてまいりました。と月になりそろそろ木陰のこいしい季節となりましたが、長期予報によりますと夏が短いとか……過ごしやすい夏だといいですネ。お体に気をつけられて楽しい郷土研の各行事に参加して下さい。心よりお待ちしております。